

一般質問

【牧田俊一議員】

★防災意識の向上について①災害地図とも呼ばれるハザードマップの周知方法と理解度向上の取り組みは。

ホームページに掲載し、改訂版を昨年12月に配付しています。県が調査中の土砂災害特別警戒区域の指定箇所は、今後ハザードマップに掲載し周知を図り、講演会や出前講座等で防災意識の高揚に努めます。

②今回の災害発生から得た教訓を基に、町が取り組むべき課題は。

的確な避難情報の発令が行えるよう努め、7月豪雨では消防団員が各戸をまわり、避難を促す等の多大な協力を得たことから、今後は要配慮者等の避難所への誘導を消防団等の協力を得ながら取り組んでいく必要があります。

③自力での避難が困難な要支援者の避難先や介助者を事前に決めておく「個別計画」の策定は。

今年度整備する「避難行動要支援者管理システム」を活用し策定に努めます。

★治水計画について①河川流下能力向上の取り組みは。

洪水等による災害発生の防止や軽減、河川環境の整備、保全を引き続き県に要望していきます。

②古田ダムの放流時に、警察や消防署との連携の現状は。

非常用洪水吐からの放流は、事前に古田ダムから町や津山警察署へ通知され、町はこの通知を受け、避難勧告等の発令を判断し、消防署へも連絡します。

★避難所について①運営マニュアルの内容は。

平成26年に作成し、運営にあつての基本事項等を定めています。

②備蓄品・備蓄量を決める基準や、季節を問わず避難者が必要とする物資の対応は。

基準は300人が3日間生活出来る食糧備蓄を目標に取り組んでいます。今回の豪雨での経験を基に更に検討し、整備を図ります。

③避難所開設時の課題と要望の把握は。

長期滞在を想定しての資材整備等の検討や、食事・生活環境・駐車場確保等の要望を踏まえた対応です。

★災害に強いまちづくりを目指すため、町民との共助をどう構築していくのか。

自主防災組織設立支援事業の活用、防災講演会や出前講座の開催等で認識を深め、防災力の向上に努めます。

【原章倫議員】

★基幹路線のバス利用について①中鉄北部バスが10月1日から減便になる対応は。

津山・石越線、津山・奥津温泉線は1日あたりの乗車人数が、国庫補助金対象の人数に達していない状況から、9月末をもって補助路線対象外ですが、今回の減便は1年間の暫定的なもので、代替の足の確保は考えていません。

②今後、県補助も対象から外れた場合、町予算を追加して現状の便数を確保するか。

中鉄北部バスを含め、いろいろな路線形態を模索している中で、何らかの補助金を得たいと思います。見直しの中では、昼間の時間帯はごんごバスを西循環線と接続し、今以上の便数を確保したいと考えています。

③高校生の通学等で、町北部から津山主要施設へ乗り換えがない交通機関の必要性が大きいと思うが。

朝・夕の通勤・通学の時間帯は、乗り換えなく目的地へ行けるように考えています。

④各路線バス、公共交通機関の接続が分かりやすい公共交通マップの作成が必要では。

路線の見直しに伴い、利用促進の観点から、公共交通マップを作成し配付します。

⑤町民がどのような公共交通を求めているか把握し、見直す転換期にきているのでは。

住みやすいまちづくり推進協議会や中地域ケア会議の中で、地域共助による移動支援等を検討しています。町として計画を固めた時点で協議を行います。一度に全ての再編は困難なため、基幹路線をしっかりと固め、次に福祉バスの形態を変更したいと考えます。

【片田八重美議員】

★観光資源の充実について①町有財産として購入した名勝奥津溪の管理体制と青楓荘の活用方法は。

担当課は産業観光課で、清掃等の維持管理は民間です。活用方法は従来と変わりなく紅葉まつり等に使用していきます。青楓荘の活用は検討中です。

②奥津溪谷内にある「奥津八景」を巡るのも魅力だが、看板・トイレ等の手入れを。

修繕整備等は、観光協会等の意見・協力を得ながら、状況をみて実施していきます。

③名勝奥津溪保存管理計画等の見直しを。

現時点では、新たな計画・委員会等の策定予定はなく、観光振興対策を進めるうえで「奥津溪」を利用した、観光プラン等を地元や町観光協会等と協議し、今以上に利活用を検討します。

★社協寄附金紛失事件について①寄附金も公金になるのでは。

公金とは、国や地方公共団体の所有に属する金銭で、その目的を達成するための作用を行うにあたり、所持している金銭です。この寄附金は町への寄附金では無く、鏡野町社会福祉協議会への寄附金です。

②社会福祉協議会で独自の真相究明をするように指示しているか。

町長としての指示等はしていません。

【光吉 準議員】

★人形峠環境技術センターについて①8月18日の共同通信の記事をどうとらえるか。

人形峠センターから記事の説明も受け、住民に誤解が生じないよう、正しい情報の提供を求めました。難しい問題を次の世代へ先送りするのはなく、しっかりと議論していくべきだと思います。

②広報かがみの9月号の人形峠センターからのお知らせの中で、地域の理解とは何を意味しているのか。

人形峠センターからの説明では、「安全が担保されることを大前提に、地域住民の方などの理解